

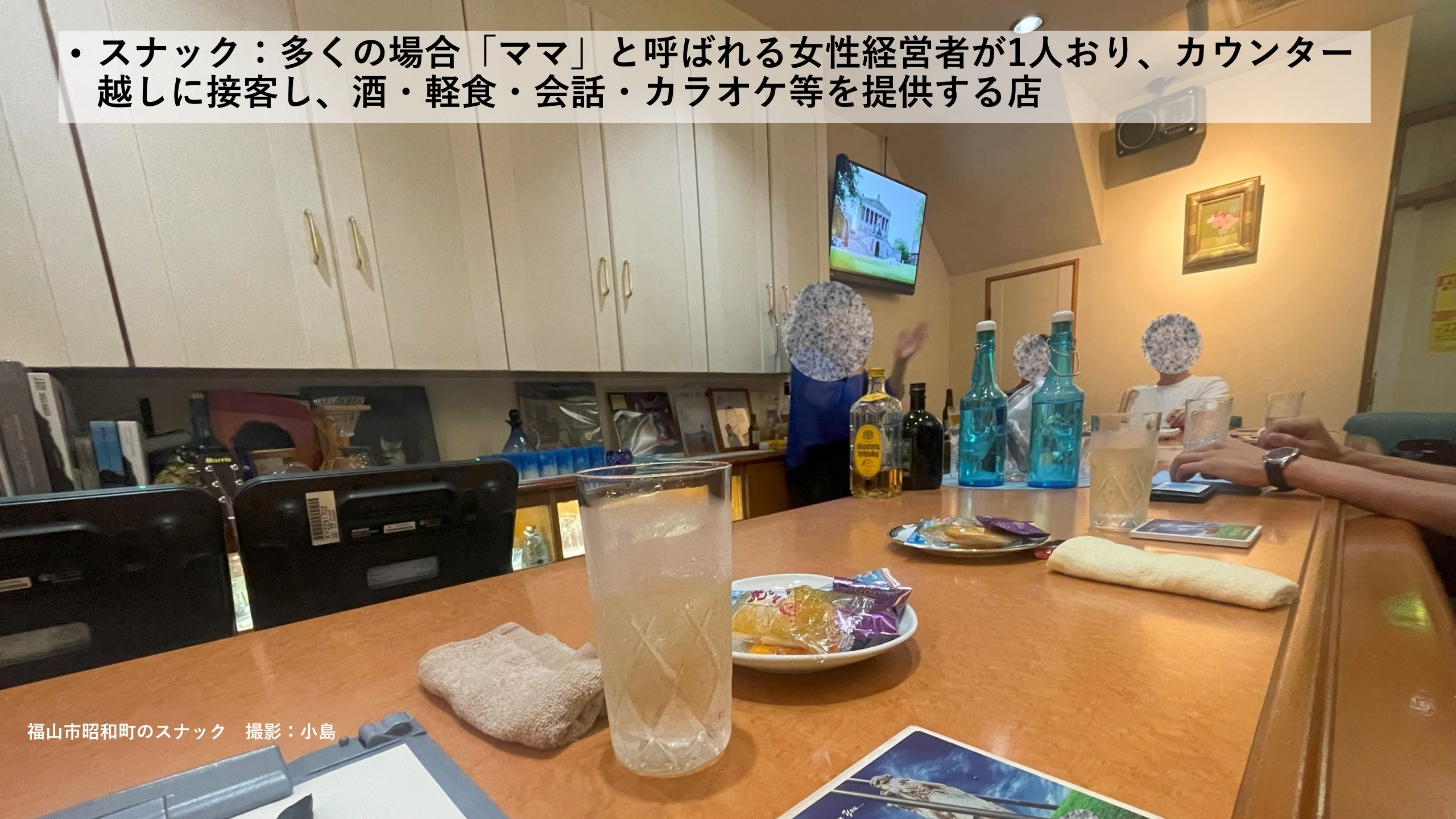
福山の夜の都市社会・経済・空間に関する研究：
スナックを中心に ※一部抜粋

小島 見和

2025/06/05

重点研究2024年度

- スナック：多くの場合「ママ」と呼ばれる女性経営者が1人おり、カウンター越しに接客し、酒・軽食・会話・カラオケ等を提供する店



- 福山：歡樂的集積のボリュームが比較的大、都市の特質
→ スナック街の分析は、この地域の社会・経済・空間的課題の析出につながる



研究グループ

所属	職名	名前	専門分野等
都市経営	教授	牧田 幸文	高齢者福祉・多文化共生
都市経営	教授	玉井 由樹	企業家活動・中小企業経営
都市経営	教授	清原 昭子	地域経済・フードシステム論
都市経営	准教授	塚本 僚平	人文地理・地域産業
都市経営	准教授	根本 修平	建築計画意匠・まちづくり
都市経営	講師	宮前 良平	社会心理学・災害復興
都市経営	助教	小島 見和	都市史・建築史

- 社会・経済・空間について多面的に分析する、分野横断的な研究グループ

2024年度研究の概要

① 建築学、都市史学、地理学、経済学、経営学、社会学諸分野における「スナック」「歓楽街」「盛り場」などをキーワードとする先行研究レビュー

② 1962年～2024年の福山市霞町明治町昭和町のゼンリン住宅地図の比較分析

③ 福山市のスナック、バーおもに2軒の現地調査、経営者・常連客へのインタビュー調査

④ 比較対象として、鳥取県米子市、愛媛県西予市、東京都武蔵野市、北海道札幌市薄野、京都府京都市祇園、京都府宇治市、愛知県名古屋市錦事例の現地調査

表3-1 福山以外のスナック事例の調査

調査日時	調査者	場所	客層・特色
2024/07/19	清原	鳥取県米子市	ママが中国人から日本へ帰化した人。米子駅付近のため出張者が多そう。米子・境港・松江の経済圏に属する地域で、かつては海産物加工業が盛んであった。地域経済圏との関係が強い。職員のスナック・バーはかつては盛んであったが、現在は減少している。客層は多岐にわたる。ママの接客が特徴。ママの接客が特徴。ママの接客が特徴。
2024/08/08	小島	東京都京都市	ママが中国人から日本へ帰化した人。米子駅付近のため出張者が多そう。米子・境港・松江の経済圏に属する地域で、かつては海産物加工業が盛んであった。地域経済圏との関係が強い。職員のスナック・バーはかつては盛んであったが、現在は減少している。客層は多岐にわたる。ママの接客が特徴。ママの接客が特徴。ママの接客が特徴。
2024/09/20-22	宮前	愛媛県西予市野村	人口5000人の地域にスナック3軒。80代のママさん、地域のコミュニケーションハブになっており、地域にかかわる大学生が手伝う。
2024/10/18	宮前	東京都武蔵野市	縁日「街中スナック」と題した町おこしイベント。伝統的スナックと異なりカラオケ・タバコなどなしで、若者も交えたコミュニティづくりを狙う。
2024/10/29-30	清原	北海道札幌市薄野	すすきの0番地(薄野南端の飲食店街ビル、築70年ほど)で長く営業するスナック2軒。かつては公務員が常連だったが官公接帯がなくなったことで減少。札幌への単身赴任者との関係。
2025/02/10	牧田・小島	愛知県名古屋市中区錦	錦のスナックやクラブのビルの1室で30年以上営業。サラリーマンのグループ客が常連。トヨタなど地域の様々な製造業との関係。2次会・3次会、組合の会合などが減少している。職場の付き合いが退職・独立後も継続してスナックで会うという事例(福山の事例に類似)。

研究目的と2024年度研究で明らかになったこと

- 社会的側面①：地域社会における準公共的な場、居場所としてのスナックの実態を分析することで、より多様な居場所を可能にする条件を明らかにする（高齢者の居場所など）

→男性の社交関係が在職中から転職・リタイア後まで継続する場になっている、職種や業界によって行きつけの店がある



福山市明治町で30年以上営業するバー



名古屋市錦で30年以上経営するスナックの常連客

研究目的と2024年度研究で明らかになったこと

- **社会的側面②**：スナックで働く人々の生活を分析することで、地域の多様な労働と生活のあり方について考察する（ジェンダーやエスニシティの問題も）

→ 経営者・従業員（多くが女性）の仕事や生活に関する「語り」、常連客との様々な会話に、地域・都市の様々なできごとに対する見解が示されていて興味深い



- （常連客）ママはふらっと来た人を常連化させるテクニックを持っている。ママを介してお客さんどうしの会話ができ、時間に無理がなく、居心地がよい。
- コロナの影響は大きい。コロナ禍で経営者や引退した経営者があまり出歩かなくなった。ロータリークラブ、ライオンズクラブの例会がなくなった。
- （常連客）企業と歓乐的集積の関係はある。福山ではJFEスチールと三菱が絶対的。これら大企業の工場とオフィスのおかげで、昭和町・松浜町などの飲食店・スナック街がある。
- 昭和町のあたりの水商売の調子は、酒屋さんのバイクの音がするかどうか、周りのお店の見送りの挨拶が聞こえるかどうかで分かる。繁盛しているときには夜の間にはしょっちゅう酒屋さんのバイクが走りまわる音が聞こえた（お酒が足りなくなって配達注文が入る）。最近は本当に静か。

研究目的と2024年度研究で明らかになったこと

- 経済的側面①：小規模経営者（個人事業主）のスナック経営のケーススタディを行うことで、これまで研究されてこなかったこの業種の経営的特質を明らかにする

→ ケース数が必要だが、飲食店として開業資金が少額（一般的に200万円程度）、拡大より定常を目指すことなどから、細々と続く小規模経営の特質分析になる、若者や女性の起業という観点から研究を進める価値がある

- 経済的側面②：関連業種と合わせたスナック業の地域経済への位置づけ、ナイトタイムエコノミーの資源としてのポテンシャルを考える

研究目的と2024年度研究で明らかになったこと

- 経済的側面③：製造業等の派生需要の受け皿としての飲酒をともなう飲食業についての立地、構造分析を行う

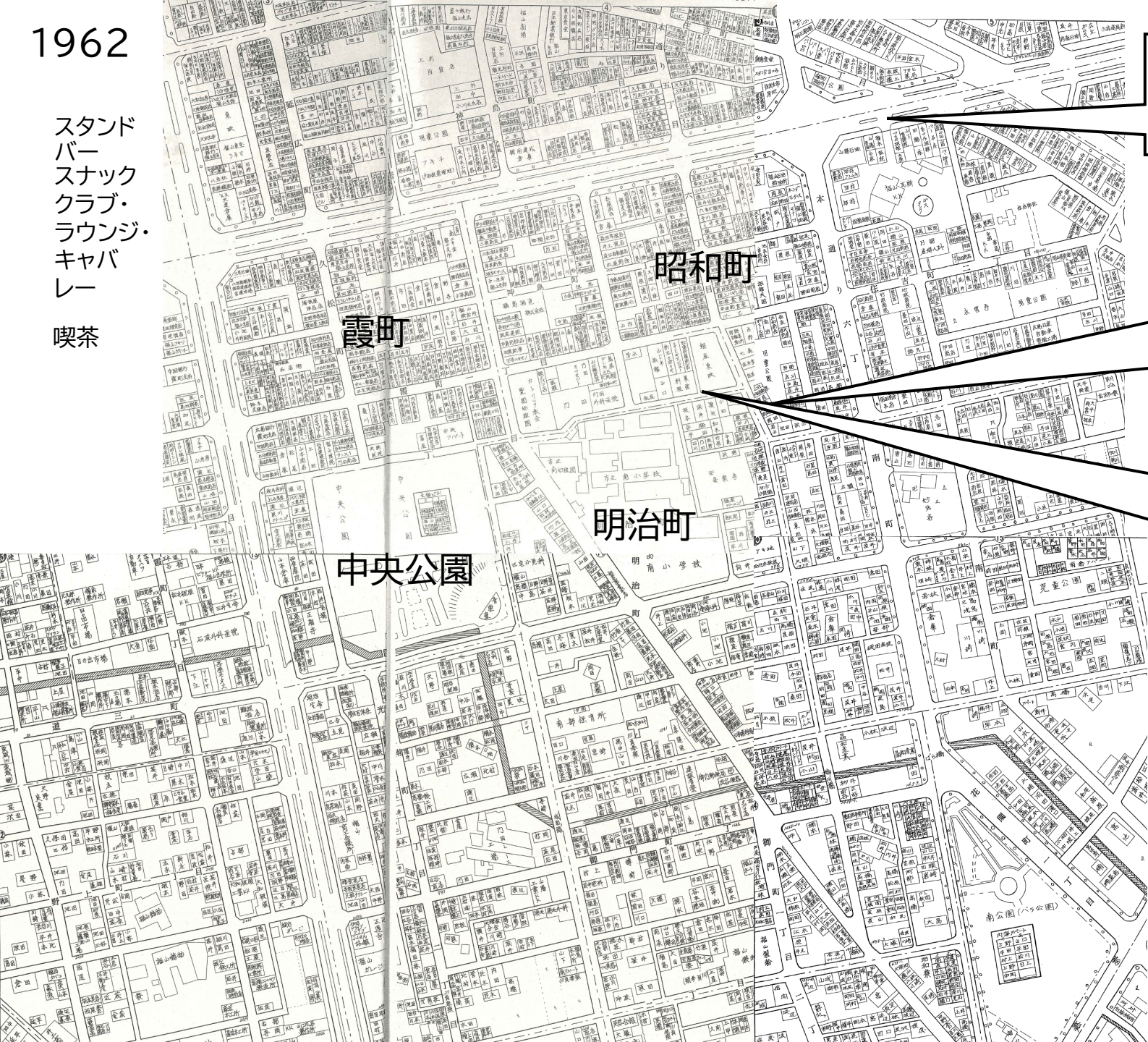
→1970年代以降の状況の聞き取りから、企業の接待需要があった／あることがわかった（料亭などの飲食店→クラブ・ラウンジ・キャバレー→スナック、という娯楽生態系）

- 空間的側面①：スナックの立地特性を、主要産業の変遷を考慮し近現代都市形成履歴と結びつけて分析することにより、悉皆的な福山の都市空間構造を解明する

→1962～2024年の福山市霞町・明治町・昭和町のゼンリン住宅地図の比較分析を行い、1970年代に「スナック」軒数が増加して明治町～昭和町に歓乐的集積が生じ、1980～90年代にビル化したものが多いことがわかった

1962

スタンド
バー
スナック
クラブ・
ラウンジ・
キャバ
レー
喫茶



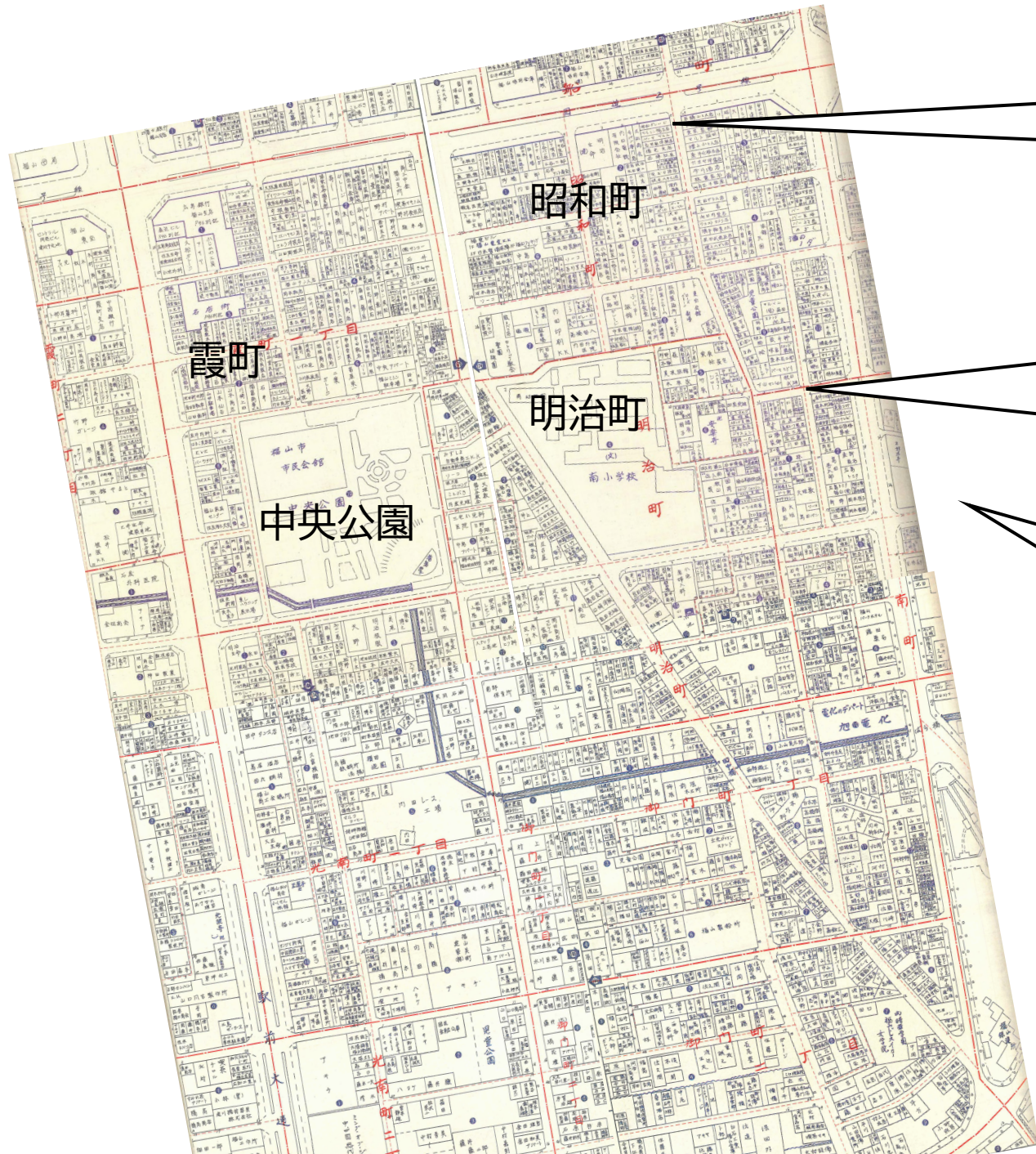
「スナック」はなく、
「スタンド」「バー」

明治町、昭和町には少
ししか「スタンド」が
ない

映画館が複数ある

1973

スタンド
バー
スナック
クラブ・
ラウンジ・
キャバ
レー
喫茶



「スナック」登場
「スタンド」「バー」
「スナック」の混在

国道2号線以南の明治町～昭和町にか
けてスタンド、バー、スナックの集
積ができた

「喫茶」も増加

1983

スタンド
バー
スナック
クラブ・
ラウンジ・
キャバ
レー

喫茶



「スナック」多数派に

集積すすむ

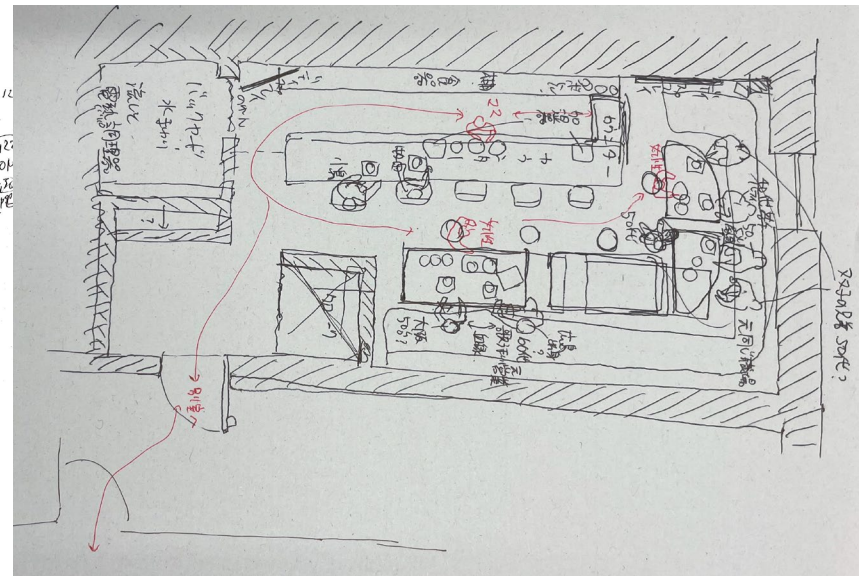
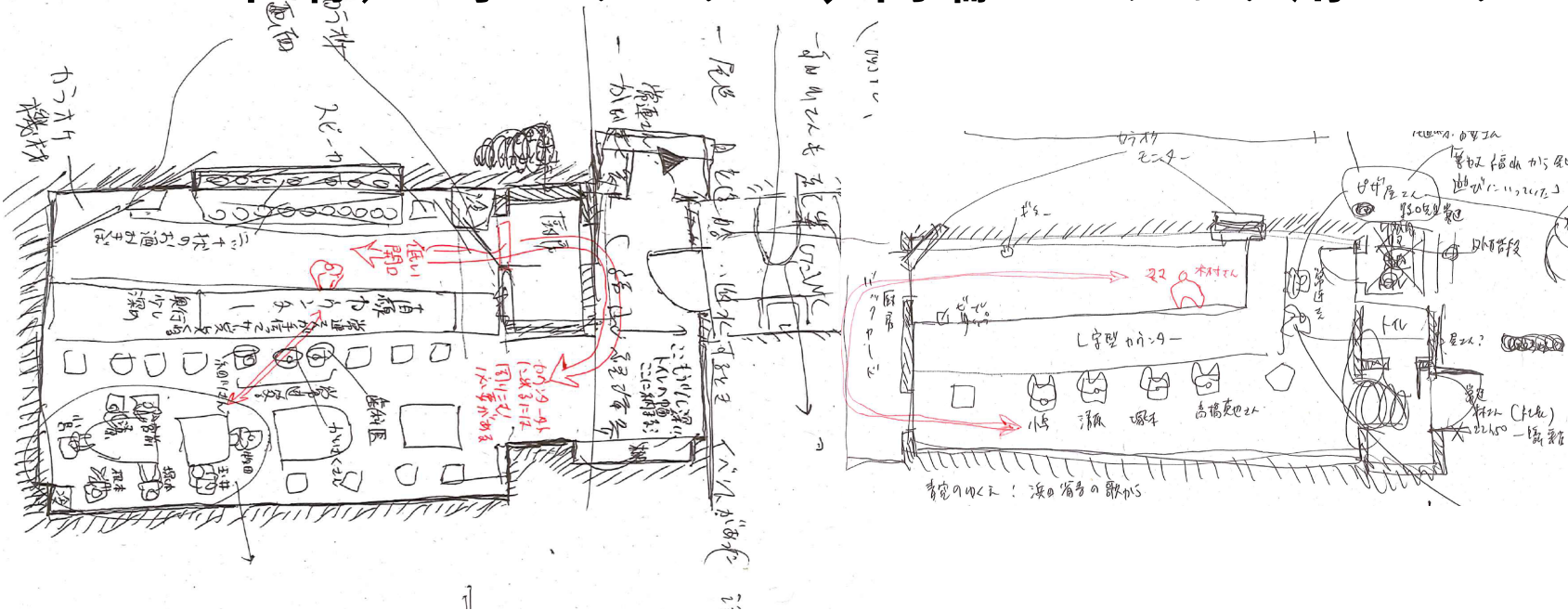
さらに南に
スナック集
積が出現



研究目的と2024年度研究で明らかになったこと

- 空間的側面②：これまで学術的検討の対象になりにくかった **スナックビル** とその使われ方や、 **店内空間** との関係について **類型化** を行う

→ **直線／L字カウンター、両端にカラオケ用モニターという平面タイプ**



研究成果の公表

(2025年度以降)

- 2024年度の研究とその後の調査分析を総合し、福山市のスナック地図とインタビュー調査の内容をまとめたブックレットの発表
- 都市史または都市計画分野などでの学会発表
- 学内紀要への論文発表

今後の展開

- ① スナックなど小規模飲食店需要の派生元の産業を含めて考察・分析することにより、地域全体（福山の場合尾道など近隣都市とセット）の社会経済の構造を読み解く
- ② 過去の詳細地図と聞き取り調査内容などをあわせて分析することにより、福山の近現代の都市形成の動態を娯楽や社交の面から空間的・地理的に明らかにできる
- ③ 職場・同業者グループがスナックを行きつけの居場所に行っていることが多く、「サードプレイス」としての役割をもつ可能性がある、経営者や常連客の生活の記憶について詳細な語りを得られ、福山や周辺の人びとの生活と社交のあり方について詳しく考察できる可能性がある
- ④ 研究内容の教育への還元（ゼミでの調査の題材として）

